

「私たちの身のまわりの環境地図 作品展」の紹介

北海道旭川明成高等学校 久原 克

1. 「私たちの身のまわりの環境地図作品展」とは？

「私たちの身のまわりの環境地図作品展」は、平成3年8月に旭川市で開催された「環境変化と地理情報システム会議」の付帯事業としてはじめて行われました。その後は毎年10月に旭川市で開催され、今年で13回目を迎えます。地図の作品展は全国でも数か所で行われていますが、**私たちの地図展は作品応募にいつさいの地域的制限を設けておらず、北海道外はもとより海外からの応募もあります。**

昨年行われた第12回「私たちの身のまわりの環境地図作品展」には、全国から約千点の作品応募がありました。その中から賞に選ばれた約百点の作品が道北地域旭川地場産業振興センターの大展示場に展示されました。昨年の地図展は、国土交通省国土地理院などが主催する「地図展2002 あさひかわ」が同会場で同時開催されたこともあり、9千人を超える来場者がありました。



「地図展2002 あさひかわ」のようす
(右側のブースが第12回「私たちの身のまわりの環境地図作品展」)

2. 「私たちの身のまわりの環境地図作品展」の目的とは？

現在、環境問題が国内外で大きく取り上げられています。学校教育でも環境についての学習に一層力を入れていかなければならず、環境を考える上で地図のはたす役割はきわめて大きいのです。

「私たちの身のまわりの環境地図作品展」は**子どもたちができるだけ環境に対する関心をもってもらうこと**を大きな目的としています。さらに、子どもたちの野外における観察力・洞察力を高めること、地図自体に興味・関心をもってもらい、同時に地図利用の能力の向上を図ることなどを目的としています。環境教育の必要性がさげられる現在、この地図展の取り組みはまさに時宜を得たものなのです。

3. どのような作品を募集しているのか？

では、「私たちの身のまわりの環境地図作品展」が募集している環境地図とはどのようなものをいうのでしょうか？一般的に、環境地図というと、自然保護・公害対策などの環境保全に直接関連することがらを示した地図をさします。もちろんそのような地図を応募してもかまいませんが、われわれの捉え方は

もっと広く、**自然そのもの**（例：樹木の数や種類）を調べた地図や人の手によって作られたもの（例：マンホールの種類や分布）を表した地図なども環境地図と考えています。

今まで応募された作品のテーマは実に多種多様で、大人では思いもつかないようなユニークなものもありました。しかし、子どもたちが環境地図づくりに取りかかるとき、何をテーマにするかは大きな課題となり



第12回 国土交通省国土地理院長賞 指定テーマ作品「町の川探検」上富良野町立上富良野小学校4年荒木隼祐

ます。そこで、地図展を主催する環境地図教育研究会が年ごとに「指定テーマ」を設定しています。今まで指定テーマとなったものには身のまわりの「みどり」「音」「におい」「色」「風」「水」などがあります。もちろん指定テーマにとらわれない自由テーマでの作品も募集しています。

「全国児童生徒地図作品展」に出品されます。

4. 審査の方法は？

「私たちの身のまわりの環境地図作品展」は小・中・高校の児童生徒から作品を募集しています。もちろん、小学校低学年の作品と高校生の作品とでは作品の内容や質がまったく違ってきます。ですから、**審査会ではそれぞれの学年の発達段階を十分考慮に入れて審査を行います。**また、作品が以下の条件を満たしているかを判断します。

- ①地図として表現されたものであること
- ②環境を取り扱ったものであること
- ③自分で観察したり調査したりしたことがらを表現したものであること

審査会ではこれらのことをふまえて応募作品の中から「国土交通省国土地理院長賞」を最高賞とする13の賞を「優秀賞」として各1～2点ずつ選考します。



〈表彰式のようす〉

その他に「優良賞」を約25点、「努力賞」を約50点選考し、これらの作品を展示会当日会場に展示します。また、「優秀賞」の中から10点ほどの作品が毎年1月に国土地理院で行われる